



2021/10/09 公開

ごうちゃんねる (GO-CHANNEL) ◆終末預言シリーズ (前兆編) ◆
#6 「イスラエルの支配下にあるエルサレム (前編)」

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。このシリーズでは聖書の終末預言についてご紹介しております。実際に興味を持って聖書を読んでみると、いや中々難しいですね。多分チンプンカンプンではないでしょうか。どれくらい分からないか？何が分からないか、ということが分からないくらいに分からないんですよね。なぜ分からないかという、聖書は専門用語が頻繁に出て来るんです。専門用語の意味を正確に知らないと、チンプンカンプンの状態になってしまうんですね。

終末預言にも専門用語がたくさん出て来ます。その 1 つに “終わりの時・終わりの日・主の日” などという言葉があります。これらはみな同じ時を指していて、狭い意味では 7 年間の患難時代の事です。人類は患難時代に向かって真っすぐに進んでいます。現在近づいています。

この患難時代に入る前に、時系列に並べることができる 10 個の出来事があるんですね。この前兆のうち、4 つは既に実現しました。残り 6 つは、これから実現する預言です。今日は、今まで実現した 4 番目のしるしについてご紹介しましょう。それは、エルサレムがイスラエルの支配下に入ることです。

新約聖書に次のようなことばがあります。

テサロニケ人への手紙第二 2 章 3~4 節

どんな手段によっても、だれにもだまされてはいけません。まず背教が起り、不法の者、すなわち滅びの子が現れなければ、主の日は来ないのです。不法の者は、すべて神と呼ばれるもの、礼拝されるものに対抗して自分を高く上げ、ついには自分こそ神であると宣言して、神の宮に座ることになります。

不法の者・滅びの子は反キリストの別名です。反キリストは自ら神であると宣言して、神の宮に座ることになります。神の宮とはエルサレム神殿です。

反キリストは最低 1 度はエルサレム神殿に入り、自分の姿かたちをした偶像をエルサレム神殿に安置する。その偶像はものを言うことすら出来るようになっている、と聖書の他の預言書に書いてあるんですね。

ということは、エルサレムに神殿が建っていなければなりません。反キリストが神殿に入ると書いてあるのだから、そのための神殿がそこに建っていなければならないんです。

エルサレムにユダヤの神殿が建つためには、エルサレムがイスラエルの支配下でなければ不可能です。

以上のことから 4 番目の前兆は、エルサレムにイスラエルの神殿が建つ。そして神殿を建てるために、エルサレムはイスラエルの施政下に置かれる、ということです。エルサレムがイスラエルの施政下に置かれる。これは 2 段階で起こることなんですね。今日は第 1 段階だけをお話したいと思います。

ユダヤ人にとって エルサレムはとびっきり大事な場所です。

今から 3000 年ほど前、イスラエルに名君ダビデ王がいました。King David.

彼はイスラエル 12 部族を束ねます。エルサレムを首都に定めたのは彼なんですね。

ダビデ王には息子のソロモン王がいて、このソロモン王がエルサレムに神殿を建てました。

ソロモン神殿（第一神殿）と言われています。このダビデ王－ソロモン王の時代がユダヤ民族の黄金時代です。この後様々な事件が起こりますが、エルサレムを舞台に、中心に回って行く話がほとんどです。ですから、ユダヤ人の民族歴史の中からエルサレムを差し引くなんてことはとても出来ません。

しかし同時に、イスラム教徒にとっても エルサレムはとても大事な場所なんですね。第3の聖地。第1の聖地はメッカ。第2の聖地はメディナ。そして第3の聖地はエルサレムだと言うんです。ただし、コーランの中にエルサレムについての記述は一箇所もありません。

アラビア語でエルサレムはアル・クッズと言います。コーランには“ムハンマドが馬に乗って、聖なる都から天に上って行った”と書いてありますが、その聖なる都がエルサレムなのかは確定できません。しかし、今のイスラム教徒の人たちは、この聖なる都はエルサレムだと信じてるんですね。

厳密に読むならば、コーランの中にアル・クッズ（エルサレム）は出て来ない。これはエルサレムを意味しているとは誰も確定できない。言い切ることが出来ない。でも、今ではエルサレムだと信じられている。だから、イスラム教徒の人たちにとっても譲れない場所なんです。

1947年11月29日、国連で非常に大事な決議がなされました。これをパレスチナ分割決議と言います。内容をひと言で言うと、パレスチナと言われている土地に、ユダヤ人の国とアラブ人の国の2つを造ろうという決議を圧倒的多数で可決したんです。

この可決の内容を簡単に言うと、パレスチナと言われている土地を3つに分ける。1つはユダヤ人の国を造るためにユダヤ人側に割り当てられた土地。2つ目はパレスチナ・アラブ人たちに、彼らの国を造るために与えられた土地。3番目はエルサレムです。

エルサレムは国際管理都市にすると決めたんですね。ユダヤ側にもアラブ側にも渡さない。どちらかに渡してしまうと、もう一方が怒り狂って、これは揉めます。戦争になります。だから、どちらの側でもない決議をしたんですね。

ユダヤ側にすると、エルサレムを取り上げられるのはもう非常に悲しいことでした。エルサレムとユダヤ民族の関わりは3000年の歴史があるんです。しかし、ユダヤ側はそれを呑みました。エルサレムの住民の最大多数派はユダヤ人だったからです。

ちょっと話は逸れるんですが、ユダヤ人は国を失くした後も常にエルサレムに住んでいました。ユダヤ人がエルサレムに住んでいない期間は、ローマがユダヤ人のエルサレム入城禁止・立ち入り禁止を厳命していた期間だけで、国を失っていた約1900年間、いつもユダヤ人はエルサレムに住んでいたんです。

彼らは“メシアはエルサレムに来る”と信じていたからです。「エルサレムにいて、メシアをいの一番にお迎えしたい。」敬虔なユダヤ教徒・宗教的ユダヤ人はエルサレムに住んでいました。ユダヤ人以外の人たちも住んでいるけど、いつもどの時代も、エルサレムの最大多数派はユダヤ人でした。

この決議案が決定した時も、エルサレムの住民のほとんどはユダヤ人だったので、ユダヤ側はこう考えたんですね。「エルサレムを国際都市にしてもらったら、エルサレムのユダヤ人住人たちは国連軍力で守ってもらえる。アラブ側の迫害から逃れることが出来る。だから、首都に出来ないのは非常に残念だがここは一つ呑もう」ということで受諾したんです。

ところが、アラブ側はこれを蹴っ飛ばした。突っぱねた。「パレスチナの土地は全部アラブ人の物。ユダヤ人側に割り当ててよい土地なんか 1 ミリもない!」「エルサレム（アル・クッズ）は全部イスラム教徒の物。国際管理下に渡していい土地なんか 1 ミリもない!」

彼らは国連の圧倒的多数で決議されていることは知っていました。

でも、いくら国連で決められても、それだけでは紙切れなんですね。実際には領土というのは軍事力で制圧し、地上部隊がいる領域が新しい国境線になるんです。だから、国連でなんぼ決めようがそんなことは関係ない。我々は戦争でこれを勝ち取る、と決意していたのです。

1948 年 5 月 14 日、国連決議に基いてイスラエルは独立しました。するとすぐに その日のうちに、アラブ 7 つの国が自国を出発し、産まれ立ての赤ちゃんみたいなイスラエルに攻め込んだんです。

アラブ連合軍は簡単にイスラエルに勝てると思ったんですね。

アラブ全体とイスラエルの人口比を比べると 5000 対 1。アリと象が戦争するようなもんですよ。

こんなもの踏み潰してくれるわ! みたいな。世界中も「ああ、これでイスラエルは一巻の終わりだ」と思った。

ところが蓋を開けてみると、イスラエルは国連に割り当てられていた土地を完璧に守り抜いたんですね。それだけでなく、1 割増して領土を広げたんです。

では、パレスチナ側はどうなったんでしょう? イスラエルに押し込まれた 1 割分が減って 9 割になった土地に、パレスチナの国が出来たんでしょうか? 出来ませんでした。

パレスチナの国が出来るはずだったヨルダン川西岸にヨルダンが攻め込んで来て、パレスチナから取り上げたんです。もう 1 つ。パレスチナの領土になるはずだったガザ地区にはエジプトが攻めて来て、パレスチナから取り上げました。

つまり、パレスチナ人の土地を取り上げたのはイスラエルではありません。

同胞アラブの国がアラブ人の領土を取り上げたんです。

では、問題のエルサレムはどうなったのか? エルサレムは本来 1 つの町でしたが戦争によって、ちょうど東西冷戦でベルリンが西と東に分断されたように、東西に分断されました。

そして、西エルサレムはイスラエルが占領し、東エルサレムはヨルダンが占領したんです。

ヨルダンが占領した東エルサレムの中にたくさんのユダヤ人住民がいましたが、ヨルダン軍は彼らを殺し、そして生き残ったユダヤ人たちを皆、西エルサレムに追放しました。

その結果、東エルサレムのユダヤ人人口はゼロになったのです。

イスラエル側には、少なくとも 1 つ良いことがありました。エルサレムの西半分を取ったということです。もしこの戦争がなければですよ、エルサレムはアラブのものにもならないけど、自分たちイスラエルのものにもならなかったんですね。

しかし、この第一次中東戦争をアラブ側が仕掛けてくれたおかげで、戦争に勝ったイスラエルはエルサレムの西半部を自分の支配下に置いたんです。これが、エルサレムがイスラエルの支配下に入るという第 1 段階ですね。

しかし、第 2 段階があるんです。実は、神殿が建てられなければならない場所は神殿山という所で、これはもう決まってるんです。神殿山はエルサレム旧市街と言われる所にあるんですね。

いや、神殿が建てられるだけではありません。

イエス・キリストが十字架に掛けられた あのゴルゴダの丘も旧市街にあるんです。

そして、イスラム教徒たちが大事にしているアル・クッズの寺院も旧市街にある。

旧市街は 4 キロの城壁で囲まれた古いエルサレムです。この宗教的に意味のある重要な場所は全部東エルサレムの旧市街にあって、そして、東エルサレムはヨルダンが支配しているんです。

終末預言が実現するためには、ヨルダンが持っている東エルサレムをイスラエルが奪還しなければならない。それが実現するのが第三次中東戦争です。

次回、東エルサレムがどのようにしてイスラエルの手に落ちたのかをご紹介します。

もしよろしければ、チャンネル登録をお願いします。

また このチャンネルでお目にかかることを楽しみにしております。

それまでどうぞ皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。